

『3次元金型設計立ち上げ』のご支援 -活動計画-

201*年**月**日

株式会社MDA

1. 実施概要

■ 名称

- 「3次元金型設計立ち上げ」のご支援

■ 目的

- ものづくりの核となる金型の3D化により、あらゆる部門で3Dデータ活用の幅を拡げ、加工から測定、検査などの業務効率化を実現するとともに技術の伝承も活発化させる。

■ 目標

- 型要件を考慮したモデル編集から型割り手法の確立
- 3D金型設計フローの基礎構築
- 部品登録状況の確認とリストアップ
- 次ステップ計画書の作成

■ 内容

- 2D、3Dデータのインポートからパラメトリックモデリング手法を理解するトレーニングと演習
- 初期設定値の決定から各種テンプレートの必要性を検討、作成するトレーニング
- 金型設計フローに沿った操作履歴やアセンブリ環境の管理方法を理解するトレーニング

■ 期間: 201*年**月～201*年**月

■ ソフトウェア: NX

2. 実施内容のご訪問日数

	項目	内容	日数	補足
①	基本トレーニング	-2Dデータのインポートから操作履歴を意識したモデリング手法を理解する。 (フィーチャモデリング、スケッチ、シンクロナスモデリング、図面) -初期設定値、レイヤ管理、テンプレートの必要性検討などを行い決定する。	1	
②	基本トレーニング	-3Dデータのインポートから操作履歴を意識したモデリング手法を理解する。 (フィーチャモデリング、スケッチ、シンクロナスモデリング、図面) -初期設定値、レイヤ管理、テンプレートの必要性検討などを行い決定する。	1	
③	型要件付けから型割り	-検証機能を利用しながら抜き勾配や収縮を付加する操作を理解する。 -PL面作成、固定側可動側の型分割操作を理解する。	2	
④	モデリング操作のフロー決定	-Q&Aによる理解を深める。 -ヒストリーモデリング手法による効果を見定めた上で、操作フローを決定する。	1	
⑤	型構想設計検討と入れ子ばらし化	-構想設計手法を現状の業務フローをもとに検討する。手法の決定は、パートモデリングとアセンブリを比較し、図面化までを考慮した上で決定する。 -型割りされたモデルの部品ばらし手法を決定する。(アセンブリ、図面)	2	
⑥	登録済部品の確認とリストアップ	-登録済部品を適用できるか検討する -登録が必要な部品(内製、購入品など)のリストアップと優先順位付けを行う。	1	
⑦	型構造設計	-構想設計後に行う型構造設計(ベースや部品のレイアウト)手法を決定する。 (アセンブリ、図面)	2	
⑧	データ・運用管理	-3Dデータ管理として金型設計の運用環境を検討します。	1	
⑨	まとめ	-全体Q&A、本取組の評価(成果や課題)と次ステップに向けた計画立案	1	
⑩	レビュー	-関係者へのご報告会	(1)	
		合計日数	12	